

ホームページもご覧ください
<http://rehabili.godream.ne.jp/>

特別講演 16:30~17:30

講師 松下 明美 先生

「職種間の壁を越えて 目ざせ！チームアプローチ ～初台リハビリテーション病院での実践から～」

【講演概要】初台リハビリテーションで実践した体験談を踏まえ、職種を超えたチームアプローチの重要性を語ります。医療制度の中でも、チーム医療、チームアプローチ、と言われてはいますがなかなか職種の壁が越えられないのが現状ではないでしょうか。

静岡リハビリテーション懇話会は医師、リハビリ職、看護職等が集まる機会です。職種を超えて何をすべきかを考えられればと思っています。

【講師略歴】2002年3月 熊本学園大学社会福祉学科卒業

2001年12月まで熊本の病院で勤務（看護部長10年、副院長3年）。

2002年1月 医療法人社団輝生会初台リハビリテーション病院開設準備室入職

2002年6月 初台リハビリテーション病院開設（病棟師長）

2016年3月 医療法人輝生会定年退職。これまでの経験をもとに若手指導のための講演活動をするとともに、「訪問看護ステーション&シルバーコミュニティサロンあざみ野ヒルトップ」を開設

静岡リハビリテーション懇話会にご参加の皆様へ

【参加者の皆様へ】

参加受付:4階 ロビー 12:00～（演者受付は11:30～）

- ① 「参加受付表」に必要事項をお書き添えの上、「会員受付窓口」または「一般受付窓口」においでください。「団体別納」の皆様は、所属施設にご確認の上、必ず「団体受付」にお越しください。
- ③ いずれの場合にも参加費のお支払いと引き換えにネームカードとネームホルダーをお渡しいたしますので、ご着用ください。※参加費は一般3000円、会員2000円、学生1000円です。
- ④ 交流会(食堂にて17:40～)にご参加の方はお申し出ください。※参加費は1000円です

年会費受付:

- ① 参加受付と同時に平成28年度および29年度の「年会費受付」を行っています。
- ② 「一般」でおいでになられた方も、年会費1000円をお支払いいただくと、その場で「会員」になることができ、参加費3000円が2000円になりますので、ご利用ください。(年2回開催されますのでお得です)

リハビリテーションに関連するすべての職種の皆様へ

＜静岡リハビリテーション懇話会会員を募集中です＞

1. 参加資格 リハビリテーション・医療・歯科医療・薬剤・栄養・福祉・介護などの分野に従事している方ならどなたでも。※会員特典 演題発表ができます。その他情報配布、参加費割引など。
2. 申込方法 ①ホームページの申込フォームに必要事項(氏名・住所・施設名・所属・職種)を入力して送信。
②必要事項をE-mailで送信。E-mailアドレス: anco@godream.ne.jp
③事務局にFAX。
3. お問い合わせ TEL:054-237-9625 FAX:054-237-5069 E-mail: areanetcom@gmail.com

◎静岡リハビリテーション懇話会は、「日本作業療法士協会」「日本理学療法士協会」生涯教育制度単位付与対象学会・研修会に認定されています。【作業療法士会】参加:2ポイント 発表:2ポイント 講師:2ポイント 座長:士会裁量で1ポイント(但し、1年間に士会裁量は2ポイントまで)および社会貢献活動のひとつとして認可【理学療法士会】＜専門・認定理学療法士ポイント＞学会参加:10ポイント 発表:5ポイント＜新人教育プログラム＞ 症例発表 C-6 「日本医師会」は現在申請中です。「日本リハビリテーション医学会」専門医・認定臨床医生涯教育基準細則に基づく単位は今回はありません。

＝静岡リハビリテーション合同学会＝

第57回 静岡リハビリテーション懇話会

日時: 平成29年2月25日(土) 12:50より 受付開始 12:00

会場: 順天堂大学三島キャンパス TEL:055-991-3111

世話人: 殷 祥洙(湖山リハビリテーション病院 病院長 医師)

責任者: 檜前 薫(中伊豆リハビリテーションセンター センター長 医師)

特別講演: 「職種間の壁を越えて 目ざせ！チームアプローチ」

講師: 松下 明美 先生

看護師・訪問看護ステーションシルバーコミュニティサロンあざみ野ヒルトップ 開設者



○駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください。三島駅南口から徒歩10分位です。車椅子の方はあらかじめご連絡ください。
○会場は一部を除いて飲食禁止で、施設内は禁煙です。ご注意ください。

第57回静岡リハビリテーション懇話会概要

主催	静岡リハビリテーション懇話会
共催	静岡県作業療法士会 静岡県理学療法士会 静岡県看護協会
会長	望月 達夫(静岡医療福祉センター)
世話人	殷 祥洙(湖山リハビリテーション病院)
責任者	檜前 薫(中伊豆リハビリテーションセンター)
事務局長	熊谷 範夫(静岡リハビリテーション病院)
後援	静岡リハビリテーション医学会 静岡県歯科医師会 静岡県 静岡県社会福祉協議会 静岡県医師会

一般演題 セッションA 1階 11番教室

A-I 13:00~14:00

A-I-1	重症心身障害児(者)の関わりに対しての小さな一歩～感覚障害の程度の検討～	森 元気	理学療法士	国立病院機構 静岡富士病院
A-I-2	発症から約3年経過した嚥下障害者に、K-point刺激が有効であった1例	阿部 卓矢	言語聴覚士	中伊豆リハビリテーションセンター
A-I-3	全盲で失語症を呈した症例へのコミュニケーション支援	田中 真紀	言語聴覚士	中伊豆リハビリテーションセンター
A-I-4	音楽療法の効果	須藤 彩里	音楽療法士・介護職	医療法人財団 百葉の会 湖山リハビリテーション病院
A-I-5	「重度認知症患者に対する作業療法」小集団を介したアプローチ	竹原 優介	作業療法士	遠江病院
A-I-6	回復期から維持期にかけて治療を続け、覚醒延長を起点として経口摂取に至った一例	佐野 稚奈	言語聴覚士	静清リハビリテーション病院、老人介護保健施設エスコートタウン静清

A-II 14:10~15:10

A-II-1	「好きなこと」により重症心身障害者の能動性を引き出す作業療法	酒井 智也	作業療法士	国立病院機構 静岡富士病院
A-II-2	リーチ動作を取り入れた遊びを通しての変化	加藤 華奈美	理学療法士	NHO静岡富士病院
A-II-3	子どもたちのポジティブな感性を育てよう～ふれあい介護体験&お仕事体験～	矢部 久美	作業療法士	湖山リハビリテーション病院
A-II-4	ADLの質的な向上を目的に左上肢の参加を促した一例	川田 麻衣子	理学療法士	静岡医療福祉センター
A-II-5	脳性麻痺アテトーゼ型女児に対するseating	杉浦 麻理耶	理学療法士	静岡医療福祉センター
A-II-6	園芸療法と活動性について	鈴木 沙織	理学療法士	おおふじ五幸ホーム

A-III 15:20~16:20

A-III-1	当院におけるNSTチームにPTが参加しとことによって得られた効果の一考察	梅原 健人	理学療法士	富士市立中央病院
A-III-2	セーフティシートは有効か? ~チームのKYTを考える~	石神 恵	理学療法士	介護老人保健施設 鶴舞乃城
A-III-3	チームマネジャー制を導入して ~チーム力向上は見られるのか~	河瀬 真理	理学療法士	湖山リハビリテーション病院
A-III-4	チーム連携で取り組むポジショニングの紹介	三浦 千春	看護師	静岡富沢病院
A-III-5	褥瘡回診にて多職種でケア方法を検討し、褥瘡の改善に至った一例	河戸 誠司	理学療法士	静清リハビリテーション病院
A-III-6	複数の課題を持つ小児患者と家族への訪問看護師の支援～多職種のコーディネートを中心とした支援による問題解決の事例～	田沼 寮子	看護師	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター 訪問看護ステーションあおぞら

一般演題 セッションB 2階 21番教室

B-I 13:00~14:00

B-I-1	お客様の本当にしたい事を支えるために～デイサービスと病院セラピストの連携～	伊津 善章	理学療法士	湖山リハビリテーション病院
B-I-2	また家で料理をしたい。自分が作ったおいしいご飯を食べたい ~デイケアでの調理訓練を通して~	中田 卓見	作業療法士	介護老人保健施設 鶴舞乃城
B-I-3	通所リハビリにおける自宅訪問の大切さ	鈴木 玄太	理学療法士	介護老人保健施設ききょうの郷
B-I-4	軽度脳血管障害を呈した高齢者に対する自動車運転支援	中川 和代	作業療法士	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター
B-I-5	通所リハビリテーションの目指す所【入浴・外出・卒業へのアプローチ】症例の関わりを通じて	谷田沢 力也	理学療法士	医療法人財団 百葉の会 湖山リハビリテーション病院
B-I-6	趣味を活かした演奏会を開催し、意欲、活動性の向上を認めた一例 ~生きがいへ繋がる、身体的、環境的アプローチの過程~	杉本 大輔	作業療法士	静岡石田Ryuメディカルトレーニングデイ

B-II 14:10~15:10

B-II-1	退院後の生活を充実するために～目標設定に重点をおいて～	田村 和槻	理学療法士	湖山リハビリテーション病院
B-II-2	感覚低下を伴う黄色靭帯骨化症患者一例に対する段階的アプローチ方法の検討	藤原 治樹	理学療法士	静清リハビリテーション病院
B-II-3	頸部の角度の違いによる関節可動域、握力の変化について	中嶋 奈津美	理学療法士	リハビリテーション中伊豆温泉病院
B-II-4	回復期リハビリテーション病院における在宅復帰支援 ~本人・家族間で主訴の乖離がある症例に対しての外泊を通じたアプローチ~	河合 香奈	作業療法士	静清リハビリテーション病院
B-II-5	当センターにおけるロボットスーツHALを使用した取り組み	小長谷 拓也	理学療法士	中伊豆リハビリテーションセンター
B-II-6	元々運動習慣が無かった方への運動指導について～自主トレ介入による効果～	渡邊 朋之	理学療法士	湖山リハビリテーション病院

B-III 15:20~16:20

B-III-1	脳出血により重度四肢麻痺を呈した症例 ~家族との関わりの中で学んだこと~	嶋田 泰大	理学療法士	湖山リハビリテーション病院
B-III-2	坐骨神経痛を呈する脳卒中片麻痺患者に対し疼痛アプローチにより杖歩行自立を獲得した症例	河村 直樹	理学療法士	静清リハビリテーション病院
B-III-3	立位保持獲得に対する理学療法 ~片麻痺と脚長差によるアライメント不良に対する訓練内容を通して~	小笠原 慎	理学療法士	静清リハビリテーション病院
B-III-4	重度頸髄損傷患者への退院支援	那須 識徳	作業療法士	農協共済中伊豆リハビリテーション
B-III-5	同時期に左片麻痺、左大腿骨頸部骨折を呈し歩行能力向上を目的とした一例	高橋 直人	理学療法士	藤野整形外科医院
B-III-6	大腿骨転子部骨折後患者の独歩安定性向上にむけた治療アプローチ	渡邊康之郎	理学療法士	静岡整形外科リハビリ病院